

TASCAM

TEAC Professional Division

FRONTIER

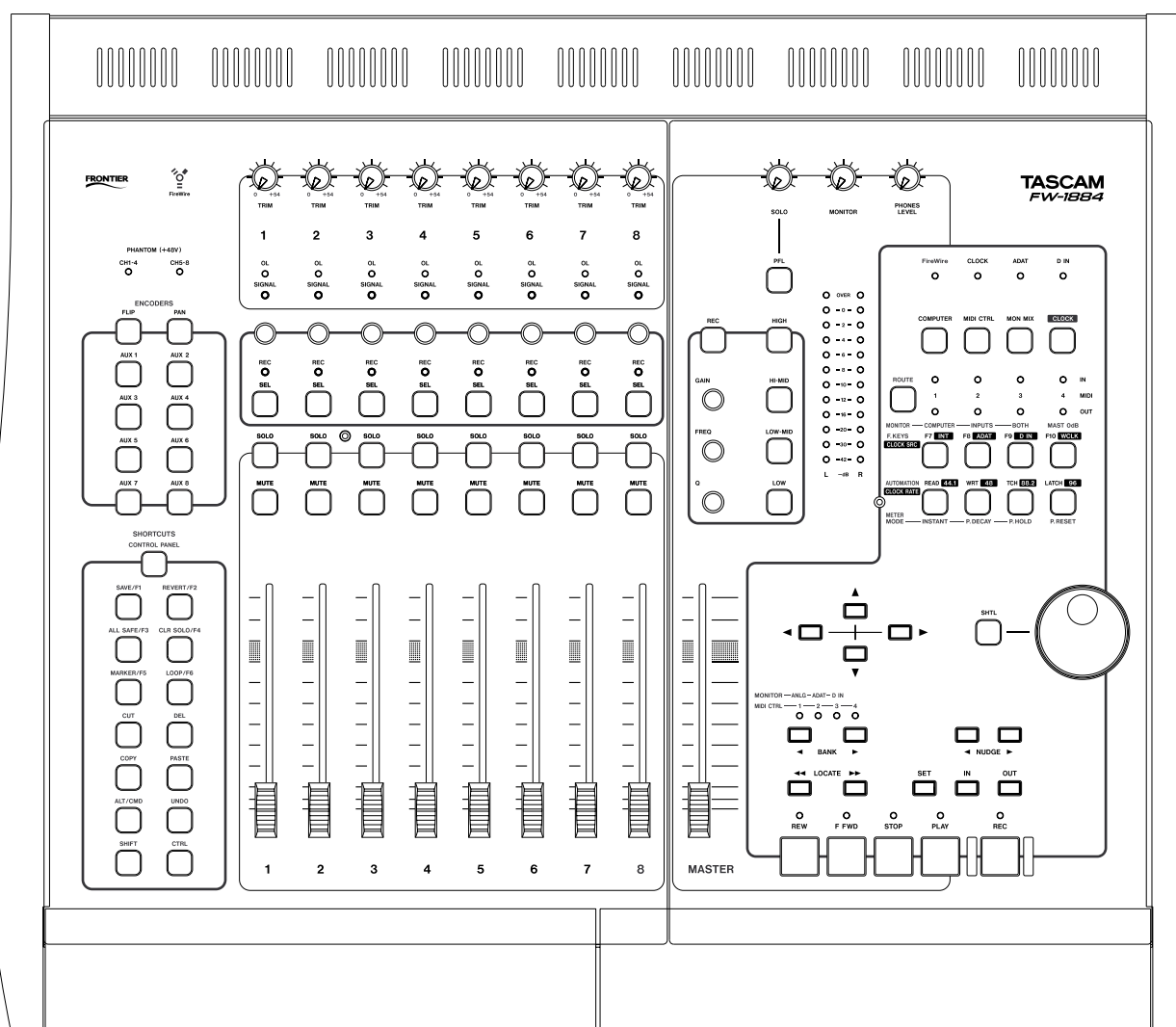
DESIGN GROUP

D00756600A

FW-1884

Professional Control Surface /
FireWire Audio-MIDI Interface

セットアップガイド



目次

第1章 はじめに.....	3
FW-1884 について.....	3
COMPUTER（コンピューター）モード.....	3
MIDI CTRL（MIDI コントロール）モード.....	4
MON MIX（モニターミックス）モード.....	4
IEEE1394 規格と FW-1884.....	5
ソフトウェアインストールの前に.....	6
第2章 インストール（Windows 2000/Windows XP）.....	7
システム必要条件.....	7
ソフトウェアをインストールする.....	8
Windows の New Hardware Wizard を使ったインストール.....	8
第3章 インストール（Mac OS 9.2 ～）.....	9
システム必要条件.....	9
ソフトウェアをインストールする.....	9
OMS を設定する（OS X 以前の Mac OS のみ）.....	9
第4章 インストール（Mac OS X 10.2.4 ～）.....	10
システム必要条件.....	10
ソフトウェアをインストールする.....	10
第5章 接続.....	11
MIDI の接続.....	11
MIDI のルーティング.....	11
アナログオーディオの接続.....	11
入力.....	11
出力.....	12
出力に関する設定.....	12
デジタルオーディオの接続.....	13
ステータスインジケーター.....	13
ワードシンクの設定.....	14
その他の接続.....	15
ワードクロックの接続.....	15
フットスイッチ.....	15

FW-1884 について

コンピュータシステムに FW-1884 を加えることにより、以下の高性能オーディオ入出力／コントロール機能が追加されます。

- 8 チャンネルアナログ入出力
- ADAT オプティカル経由の 8 デジタル入出力（88.2kHz および 96kHz 時は S/MUX モード対応）
- コアキシャル（またはオプティカル）接続経由の 2 チャンネルデジタルオーディオ入出力
[以上、すべて 96 kHz、24 ビットに対応]
- 4 系統の MIDI 入出力ポート
- タッチセンシティブ・ムービングフェーダー装備のコントロールサーフェス
- ロータリーエンコーダー
- トランスポートキー
- デジタルオーディオワークステーション用の機能操作キー

FW-1884 とコンピュータとの接続は、付属の IEEE1394 ケーブル 1 本のみです。このケーブルを通じて、オーディオ、MIDI、およびコントロールの情報が相互に送信されます。詳細については「IEEE1394 規格と FW-1884」[→5 ページ] をご覧ください。

コントロールサーフェスでの操作情報は、MIDI 情報としてホストの DAW アプリケーション側に送信されます。DAW アプリケーション側は、FW-1884 のドライバ上で FW-1884 のコントロール MIDI ポートを認識します。

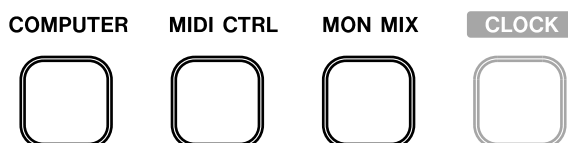
メモ

FW-1884 をコンピュータと組み合わせて使う前に、必要なドライバとユーティリティソフトウェアを、ご使用になるコンピュータにインストールしなければなりません。インストール方法の詳細については、以下のページをご覧ください。

- Windows 2000、Windows XP の場合：→7 ページ
- Mac OS 9.2 の場合：→9 ページ
- Mac OS 10.2.4 以降の場合：→10 ページ

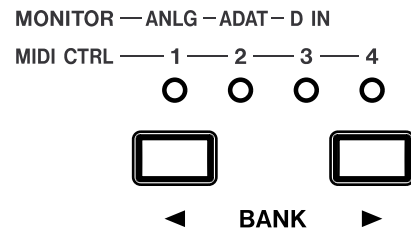
また FW-1884 を単体の 18 IN-2 OUT のモニターミキサーとして使用することもできます。[→4 ページ「MON MIX（モニターミックス）モード」]

本機には 3 つのメイン操作モードがあります。以下のモードキー（COMPUTER、MIDI CTRL、MON MIX）を使ってモードを選択することができます。



いずれかのモードキーを押すと、キーが点灯し、FW-1884 がそのモードに入ります。

FW-1884 に装備されているチャンネルモジュールは 8 本ですが、BANK キーを使ってそれぞれのモードでアサインされたフェーダーバンクを選択することができます。



BANK キーで選択されるバンクの持つ意味は、選択中のモードによって異なります。

COMPUTER（コンピューター）モード

このモードでは、パネル上の操作キー／つまみを操作することによって、IEEE1394 ケーブルを経由し、ホストコンピュータ上の DAW ソフトウェアにメッセージが送信されます。

このモード中に実行される操作を有効にするには、DAW ソフトウェアを起動しているホストコンピュータに FW-1884 が接続され、DAW ソフトウェアが FW-1884 のコントロール MIDI ポートからメッセージを受信するように設定されている必要があります。FW-1884 は、多くの DAW アプリケーションによってサポートされている「ネイティブ」エミュレーションで動作することができます。「ネイティブ」エミュレーションは多くの DAW アプリケーションによってサポートが予定されています。また FW-1884 のネイティブエミュレーションをサポートしていない DAW アプリケーションと一緒に使用する場合は、FW-1884 を「Mackie Control」エミュレーションに設定して対応することができます。また、「HUI」エミュレーションにも対応し、ProTools などのプロトコルに対応している DAW のコントロールが可能です。これらのエミュレーションの選択はホストコンピュータ上の FW-1884 のコントロールパネルから行ないます。

FW-1884 を DAW ソフトウェアと一緒に使用する場合の詳細については、FW-1884 アプリケーションガイドをご覧ください。

DAW ソフトウェアの構成によって、最大 8 チャンネルのアナログ出力、8 チャンネルの ADAT デジタル出力、2 チャンネルの S/PDIF 出力が得られます。

外部 MIDI 機器との MIDI データ送受信に、リアパネル上の 4 系統の MIDI ポートを DAW アプリケーション上で使用することができます。また MIDI のルーティングを自由にアサインすることも可能です。詳しくは「MIDI ルーティング」[→11 ページ] をご覧ください。

このモードにおけるバンクの意味は、動作中の DAW ソフトウェアによって異なります。

MIDI CTRL (MIDI コントロール) モード

MIDI コントロールモードでは、パネル上の操作キー／つまみに対して MIDI コントロールメッセージを割り当てることができます。BANK キー／インジケータは、最大 4 つのバンクの選択に使われます（つまり、合計 32 モジュールになります）。そして、バンクを切り替えることにより、4 つの MIDI 出力の中から出力先をセレクトすることができます。

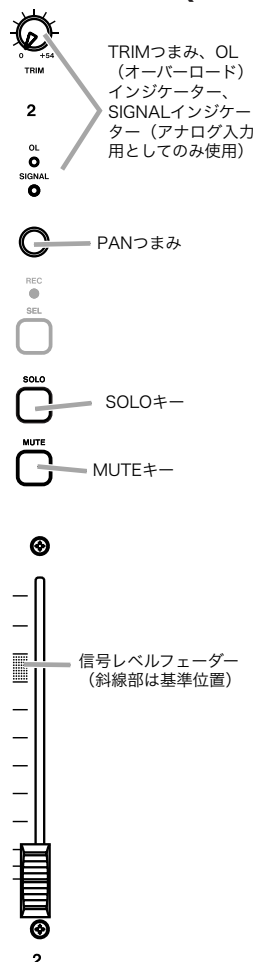
この MIDI メッセージの割り当て（マッピング）は、デフォルトで各操作キー／つまみに MIDI メッセージが割り当てられていますが、コンピューターを接続することによりマッピングのエディットが可能です。手順に関する詳細は取扱説明書に書かれていますが、概要を記しておきましょう。

ホストコンピューター上の FW-1884 コントロールパネルの MIDI Programing タブを開いてから、FW-1884 の SHIFT キー（トップパネルの左下）を押しながら MIDI CTRL キーを押すと、プログラミングモードに入ります。この後、画面上の指示に従って操作を続けます。

操作キー／つまみに MIDI 出力ポートを割り当てた後、コントロールを操作すると、MIDI OUT インジケータ（緑色）が点灯して、MIDI データが FW-1884 から送信されます。

また、FW-1884 には独立した機能としての MIDI のルーティング機能があります。詳しくは、「MIDI のルーティング」[→ 11 ページ]をご覧ください。

MON MIX (モニターミックス) モード



このモードでは、FW-1884 のリアパネルからの入力と DAW 側からの入力を FW-1884 上でミックスしてモニタリングを行ないます。最大で、8 チャンネルのアナログ入力信号、8 チャンネルの ADAT 入力信号および 2 系統のデジタル入力信号 (S/PDIF もしくは AES/EBU) をミックスすることができます。

また、DAW ソフトウェア側からの入力信号を（リアパネルからの入力信号と一緒に、あるいは別々に）モニターすることもできます。

FW-1884 では、上記の 18 チャンネルの入力信号それぞれに対して、レベル、パン、ミュート、ソロをコントロールすることができ、これらをステレオミックスすることができます。ミックス信号はリアパネルの SURROUND MONITOR (BAL) セクションの 1/L、2/R

端子から、出力されます。

ミキサーモジュールには、ANLG（アナログ）、ADAT、D IN の 3 つのバンクのいずれかを割り当てることができます（BANK キーを使って選択）。D IN を選択した場合、S/PDIF もしくは AES/EBU のステレオ入力に対応してモジュール 1 / 2 が使用されます。

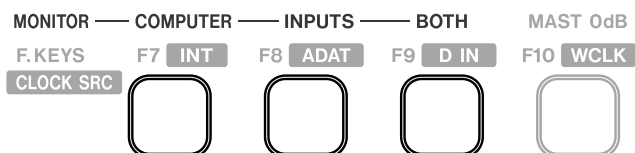
アナログ信号を入力する場合、TRIM つまみの下にあるインジケータ（OL、SIGNAL）を見ながら、TRIM つまみを使って入力レベルを適正レベルに設定します。

メモ

デジタルオーディオをミックスする場合、システム全体が共通のワードクロックを基準として動作する必要があります。共通のワードクロックによる同期設定に関しては「ワードシンク設定」[→ 14 ページ] をご覧ください。

マスターフェーダーを使ってステレオマスターレベルを調節します。また MONITOR つまみを使って、コントロールルームモニターへ送られる信号のレベルを調節します。コントロールルームモニターへの出力信号については、1/L、2/R 端子からの出力もしくは 1～8 端子からの出力のどちらかをホストコンピューター上の FW-1884 コントロールパネルで選択することが可能です。

FW-1884 がモニターミックスモードのとき、パネル右側にある以下のファンクションキーを使ってモニター信号を選択します。



• COMPUTER

FireWire 経由で入力される DAW 側からの信号が選択されます。

• INPUTS

リアパネル上の入力端子からの信号（アナログ、オプティカル、コアキシャル）が選択されます。

• BOTH

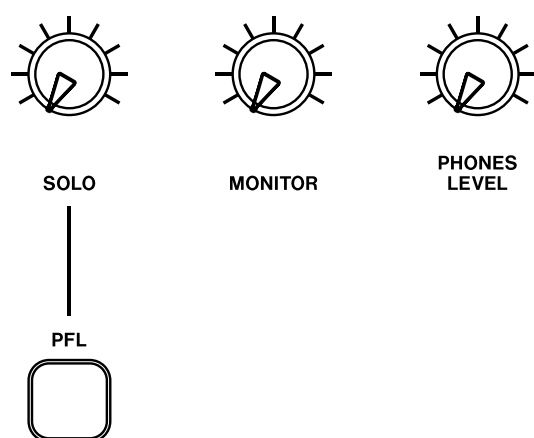
上記の両方が選択されます。

DAW 側からの信号レベルは DAW のマスター出力に依存します。

モニターミックスモードのとき、モニター信号選択キーの右にあるファンクションキー（MAST 0dB と表示）を押すと、マスターフェーダーが基準位置（0 dB）にセットされます。また、SHIFT key + 各 CH SEL key で各モジュールのフェーダーが基準位置（0dB）にセットされます。

リアパネルの PHONES ジャックからのヘッドホン出力レベルは、PHONES LEVEL つまみでコントロールできます。

モジュール上の SOLO キーを押すと、入力信号をソロモニターすることができます。PFL キーが点灯時は PFL（プリフェーダーリッスン）で、消灯時はインブレースソロになります。SOLO つまみを使って、PFL 時のソロモニターレベルをコントロールすることができます。インブレースソロ時は、ソロチャンネル以外のチャンネルがミュートされた状態でのステレオバスモニターになります。



またモニターミックスモード時であっても、MIDI のルーティング機能を使うことができます。[→ 11 ページ「MIDI のルーティング」]

IEEE1394 規格と FW-1884

IEEE 1394 規格は機器間での高速データ転送を可能にする規格です。IEEE 1394 は FireWire あるいは i.Link とも呼ばれています。この規格は転送レートが高いため（最大 400Mbps）、FW-1884 のように、マルチチャンネルオーディオを扱う場合には最適と言えます。FireWire 接続は「デジチェーン」（じゅずつなぎ）の構造となっており、接続上の機器は互いにリンクされます。チェーンの最大長は 72 メートルです。また、2 台の機器間の最大長は 4.5 メートルです。

メモ

FW-1884 には、長さ 2 メートルのケーブルが 1 本付属しています。これより長いケーブルをご使用になる場合、データロスによるオーディオドロップアウトを避けるために、長さ 4.5 メートル以内の高性能ケーブルをご使用ください。

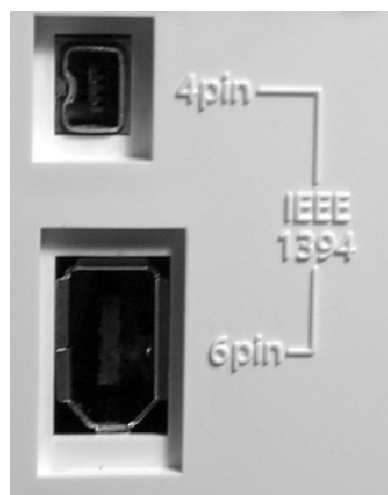
複数の機器が 1 つのサブネット上でお互いにリンクしている場合、個々の機器に対して ID を割り当てる必要がありませんので、ID スイッチもありません。したがって、FW-1884 の 2 つの

FireWire ポートの一方をコンピュータに接続し、もう一方を FW-1884 のフェーダー拡張ユニット（TASCAM FE-8）に接続することが可能です。1 つの FW-1884 に対し、最大で 15 ユニットの FE-8 をデジチェーンすることが可能です。

機器間のケーブルの接続・取り外しについては、念のため機器の電源をオフにした状態で行ってください。

メモ

DAW ソフトウェア実行中はケーブルの接続・取り外しを行わないでください。DAW ソフトウェア実行中にケーブルの接続・取り外しを行なうと、DAW 側がクラッシュまたはフリーズし、データが失われる可能性があります。また、先に FW-1884 の電源を入れてから DAW ソフトウェアを起動してください。同様に、先に DAW ソフトウェアを終了してから FW-1884 の電源を切ってください。



FW-1884 に付属されている IEEE1394 ケーブルは 6 ピン <-> 6 ピンケーブルです。IEEE1394 機器に使用されるコネクタには、6 ピンコネクタと 4 ピンコネクタの 2 種類のタイプがありますが、FW-1884 とコンピュータ間の情報の相互送信を最大限活かすため、6 ピンコネクタのご使用をお勧めします。

ソフトウェアインストールの前に

- FW-1884 と MIDI 機器の接続は、機器の電源を切った状態で行なってください。接続に関する詳細は「MIDI の接続」(→ 11 ページ) をご覧ください。
- ソフトウェアをインストールする前に FW-1884 をコンピュータに接続しないでください。
- 付属の CD-ROM の取り扱いには細心の注意をお払ください。汚れやキズなどの原因により、コンピュータがディスクを読めず、ソフトウェアをインストールできなくなる場合があります。ディスクが読めなくなった場合、有償にて交換いたします。
- 付属の CD-ROM をオーディオ CD プレーヤーで再生しないでください。

第2章 インストール (Windows 2000/Windows XP)

以下に述べる方法でFW-1884 のドライバを Windows システムにインストールすると、ASIO 2.0、WDM (MME)、および GSIF の各種ドライバがインストールされます。MIDI は MME 経由で供給されます。

システム必要条件

ご使用になるコンピュータは以下の条件を満たしている必要があります。

最低条件

- ・ Windows 2000 または Windows XP
- ・ FireWire ポート

ご使用になる DAW ソフトウェアによって、システムの必要条件は異なりますので、詳細については DAW ソフトウェアのマニュアルをご参照ください。

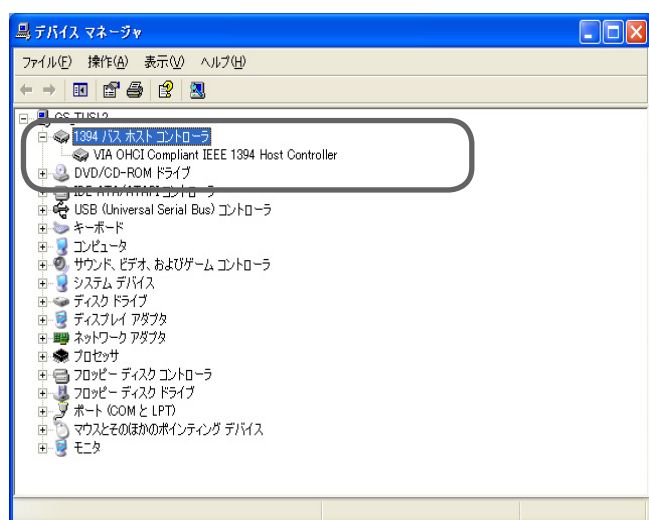
メモ

FW-1884 ドライバは Windows 95/98/Me に対応しておりませんので、これらの Windows OS 上でのご使用はできません。

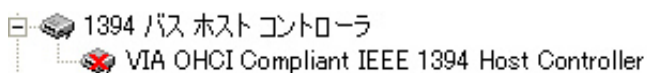
FW-1884 ドライバのインストールの前に、Windows アップデート機能を使って最新版のパッチ、サービスパック等をダウンロードし、コンピュータにインストールするようにしてください。

また、ご使用するコンピュータに IEEE 1394 インターフェース (FireWire ポート) が搭載され、使用できる状態であることが必要です。IEEE 1394 インターフェースは OHCI 準拠でなければなりません。これを確認するには、デスクトップもしくはスタートメニューの「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」を選択し、「ハードウェア」タブ上の「デバイスマネージャ」を選択します。

デバイスマネージャウィンドウには 1394 バス ホスト コントローラという項目があります。左側のプラス (+) ボックスをクリックします。



システムに搭載されているコントローラーが表示されます。コントローラーのアイコンの横あるいは上にクエスチョン (?) マークやバツ (x) マークが表示されている場合、コントローラーを使用できません。



上記の例ではアイコン上にxマークが表示され、コントローラーが使用できない状態であることを示しています。これを使用できる状態にするには、コントローラーアイコンをダブルクリックして「プロパティ」パネルを表示し、全般タブ上のデバイスを有効にするボタンをクリックします。



画面に表示される指示に従って、デバイスを使用できる状態にしてください。

「デバイスマネージャ」内にクエスチョンマーク (?) が表示されている場合は、デバイスのコンフリクトなどが考えられます (不明の点はコンピュータの説明書をご覧ください)。この場合、IEEE 1394 機能を使用できる状態にする前にドライバを再インストールしてみてください。

上記必要条件を満たすコンピュータと本製品を接続したときの動作は、製品出荷前に検査されていますが、使用環境によっては動作を保証できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

インストール (Windows 2000/Windows XP)

ソフトウェアをインストールする

Windows 2000 の場合と Windows XP の場合とで、ソフトウェアのインストール手順は基本的に同じです。

インストーラも共通で、インストーラの名称は“FW1884_WIN_1_00”です。

CD-ROM ディスクには、インストーラとは別に、システムのコンポーネント（ドライバ、コントロールパネル項目など）が収納されていますが、通常はインストーラを使ってインストールすることをお勧めします。各ファイルが自動的に所定の位置に収納されますので、後から問題が起きる可能性を減らすことができます。また、FW-1884 をアンインストールする必要がある場合、デバイスマネージャーを起動して、FW-1884 ドライバを削除してください。

メモ

タスカムのウェブサイトで、FW-1884 の最新ソフトウェアバージョンをチェックすることができます。必要に応じてダウンロードし、インストールを行なってください。

- 1.FW-1884 がコンピュータに接続されていないことを確認します。FW-1884 の電源コードを接続してください。ただし、まだ電源を入れないでください。
- 2.コンピュータ上で起動中のアプリケーション（ウィルス対策ソフトを含む）をすべて終了します。
- 3.インストーラをダブルクリックします。
- 4.次へをクリックします。
ダイアログボックスが表示されます。
- 5.次へをクリックします。
ドライバファイルがハードディスクにインストールされます。

メモ

「インストールしようとしているソフトウェアがデジタル署名を持っていない」という内容のメッセージが表示される場合がありますが、続行をクリックして、インストール作業を続けます。

- 6.コンピュータを再起動してください、という内容のメッセージが表示されたら、再起動します。
- 7.FW-1884 をコンピュータに接続し、電源を入れます。Windows プラグアンドプレイシステムが FW-1884 を検出し、ハードウェアの検索ウィザードを起動します。そして必要なファイルが探し出されます。
- 8.選択画面が表示されたら、「ソフトウェアを自動的にインストールする」を選択します。
デジタル署名などに関する警告が表示されても無視して、続行を選択します。

- 9.このプラグアンドプレイプロセスを終了するまでに約 1 分を要します。

これでドライバがインストールされ、FW-1884 を使用できる状態になります。

Windows の新しいハードウェアの検索ウィザードを使ったインストール

以下に、別のインストール方法を説明します。ただし、上記の方法によるインストールをお勧めします。

- 1.付属の CD-ROM をコンピュータのドライブにセットします（あるいは、最新のドライバ・バージョンをダウンロードします）。
 - 2.コンピュータ上で動作中のプログラム（ウィルス対策ソフトも含む）をすべて終了します。
 - 3.FW-1884 をコンピュータに接続し、電源を入れます。
- Windows プラグアンドプレイシステムが FW-1884 を検出し、新しいハードウェアの検索ウィザードを起動します。
- 4.「一覧または特定の場所からインストールする」を選択し、次へをクリックします。
 - 5.ドライバが保存されている場所を選び、OK をクリックします。

- 6.システムが firmware download ドライバを見つけたら、Next をクリックします。
デジタル署名などに関する警告が表示されても無視して、続行を選択します。

- 7.完了をクリックします。
他のドライバコンポーネントが自動的に検出されてロードされます（3 つのコンポーネントが検出されます）。これには多少の時間を要します。

- 8.メッセージが表示されたら、完了をクリックします。その後、コンピュータを再起動します。

これでドライバがインストールされ、FW-1884 を使用できる状態になります。

第3章 インストール (Mac OS 9.2 ~)

システム必要条件

- ・ Macintosh G3 または G4 (iMac、eMac、iBook などを含む)
- ・ Mac OS 9.2 以上
- ・ FireWire ポート

ご使用になる DAW ソフトウェアによって、システムの必要条件は異なりますので、詳細については DAW ソフトウェアのマニュアルをご参照ください。

FW-1884 とコンピューターを接続していない状態で、インストールを行ないます。

メモ

- FW-1884 は Mac OS 9.2 未満のバージョンでは動作しません。
- タスカムのウェブサイトで、FW-1884 の最新ソフトウェアバージョンをチェックすることができます。必要に応じてダウンロードしてインストールを行なってください。

ソフトウェアをインストールする

付属の CD-ROM (またはダウンロードしたディスクイメージ) に は、OS X 用 (FW_1884_OSX_1_00) と OS 9.2 用 (FW_1884_OS9_1_00) の 2 つのインストーラが収められています。

1. CD-ROM をコンピューターにセットして、OS 9 インストーラをハードディスクにドラッグします。(あるいは、タスカムのウェブサイトから最新バージョンの OS 9 用インストーラをダウンロードします。)
2. インストーラをダブルクリックします。その後、画面の指示に従います。
3. FW-1884 をコンピューターに接続します。FW-1884 を接続すると、システムが今インストールされたドライバを自動的に探し出します。

OMS を 設 定 す る (OS X 以前の Mac OS のみ)

Cubase や Pro Tools などのアプリケーションは、MIDI インプリメンテーション用に OMS (Open Music System) を使用します。OMS は Macintosh における MIDI マネージメント用の標準システムです。FW-1884 は MIDI の送受信を行ないますので、FW-1884 を使用するには OMS をインストールする必要があります。ただし、Digital Performer の場合は OMS ではなく FreeMIDI を使用します。ドライバは OMS と FreeMIDI をどちらもサポートしています。

FW-1884 に OMS を設定する手順：

1. OMS インストーラを実行します。最新版の OMS がない場合、www.opcode.com から無料でダウンロードできます。

FW-1884 Drivers フォルダがデスクトップ上に作成されます。

2. FW-1884 Drivers フォルダ内の FW-1884 OMS driver をシステムフォルダの OMS フォルダ内に移動します。
ハードディスク上の Opcode フォルダ内には移動しないでください。正しく動作しません。

3. コンピュータを再起動します。FW-1884 を接続して、電源を入れ、OMS Setup アプリケーション (Opcode フォルダ内にあります) を起動します。

4. File メニューから New Studio Setup を選択します。
シリアルポート (モデムまたはプリンタ) を選択する画面が表示されますが、どちらも選択しないで、Search をクリックしてください。コンピューターに装備されている全 MIDI ポートを OMS がチェックして、認識したポートに対して OMS インストルメントを組み込みます。この状態を保存しておけば、次回からこのセットアップが読み込まれます。

5. セットアップが完了すると、接続している全 MIDI ポートがリスト表示されます。他に接続がない場合は、FW-1884 アイコンと FW-1884 のコントロール MIDI ポートのみが表示されます。

OMS セットアップが完了したら、FW-1884 とオーディオアプリケーションの設定を行ないます。詳しくはご使用する DAW アプリケーションソフトのマニュアルおよび、FW-1884 のアプリケーションガイドをご覧ください。

第4章 インストール (Mac OS 10.2.4 ~)

システム必要条件

- ・ Macintosh G3 または G4 (iMac、eMac、iBook などを含む)
- ・ Mac OS X 10.2.4 以上
- ・ FireWire ポート

ご使用になる DAW ソフトウェアによって、システムの必要条件は異なりますので、詳細については DAW ソフトウェアのマニュアルをご参照ください。

FW-1884 とコンピュータを接続しない状態で、インストールを実行します。

メモ

- FW-1884 は 10.2.4 未満の Mac OS X バージョンでは動作しません。
- タスカムのウェブサイトで、FW-1884 の最新ソフトウェアバージョンをチェックすることができます。必要に応じてダウンロードしてインストールを行なってください。

ソフトウェアをインストールする

付属の CD-ROM (またはダウンロードしたディスクイメージ) には、OS X 用 (FW_1884_OSX_1_00) と OS 9.2 用 (FW_1884_OS9_1_00) の 2 つのインストーラパッケージが含まれています。

1. CD-ROM をコンピューターにセットして、OS X インストーラをハードディスクにドラッグします。(あるいは、タスカムのウェブサイトから最新バージョンの OS X 用インストーラをダウンロードします。)
2. インストーラをダブルクリックして開きます。
3. 管理者名とパスワードの入力画面が表示されたら、入力を行います。
4. 画面の指示に従って、インストールを行ないます。
5. 必要であれば、コンピューターを再起動します。
6. コンピューターを再起動した後で FW-1884 をプラグインすると、システムが FW-1884 を認識します。

7. 使用するアプリケーションの入出力を設定します。アプリケーションによって設定方法は異なります。詳しくはご使用する DAW アプリケーションソフトのマニュアルおよび、FW-1884 のアプリケーションガイドをご覧ください。

8. 必要に応じて、アップルの Audio and MIDI Setup アプリケーションを使って内部ゲインレベルなどの設定を行ないます。

メモ

OS X 環境下では、OMS や FreeMIDI などが不要です。FW-1884 は OS X の CoreMIDI 機能を使って FW-1884 システム全体の MIDI 機能の管理を行ないます。

FW-1884 のケーブルの接続・取り外しは、念のため全機器の電源を切った状態で行なってください。電源を入れるときは、信号ソースに近い機器から順に行なってください（つまり、モニターシステムの電源を最後に入れます）。電源を切るときは、逆にモニターシステムを最初に切ります。この順番を逆にすると、モニタースピーカーからノイズが発生する恐れがあります。

MIDI の接続

MIDI 楽器、コントローラーなどの MIDI OUT ポートを FW-1884 の MIDI IN ポートに接続します。

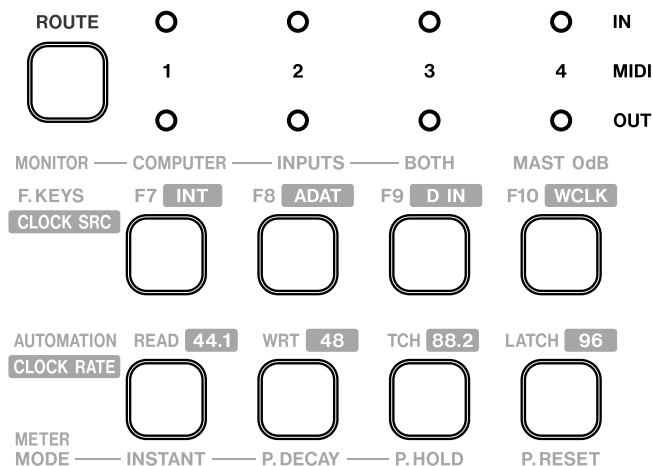
FW-1884 の MIDI OUT ポートは外部 MIDI 機器の MIDI IN ポートに接続します。

メモ

コンピューターと FW-1884 を接続する IEEE1394 ケーブルは、双方向の MIDI 情報を扱います（FW-1884 のパネル上の操作によって発生する MIDI メッセージも含まれています）。したがって、コンピューターと FW-1884 間を MIDI ケーブルで接続する必要はありません。

MIDI のルーティング

すでに述べたように、FW-1884 とコンピューターを切り離した場合でも、FW-1884 の MIDI IN ポートからの MIDI メッセージを MIDI OUT ポートにルーティングすることができます。



トップパネル右側には、ルーティング設定を行なうためのキーやインジケーターが並んでいます（上図参照）。

左上の ROUTE キーは、ルーティング設定モードのオン/オフを切り替えます。

2 行 4 列のキー群はそれぞれ、上段が MIDI IN ポート（1～4）、下段が MIDI OUT ポート（1～4）に対応しています（以下の説明では、それぞれ MIDI 入力キー、MIDI 出力キーと呼びます）。

そして、これらのキーの上部にあるインジケーター群も、上段が MIDI IN ポート（1～4）、下段が MIDI OUT ポート（1～4）に

対応しています（以下の説明では、それぞれ MIDI 入力インジケーター、MIDI 出力インジケーターと呼びます）。

1. ROUTE キーを押して、キーを点滅させます。

同時に、4 つの MIDI 入力キー（および赤色の MIDI 入力インジケーター）が点滅します。

2. 点滅している MIDI 入力キーのいずれか 1 つを押します。

キーが点滅から点灯に変わります。また、このポートが MIDI OUT ポートのいずれかにルーティングされている場合、ルーティング先の MIDI 出力キーおよび緑色の MIDI 出力インジケーターが点灯します。

3. 選択された MIDI IN ポートから MIDI OUT ポートへのルーティングの設定のオン/オフは、MIDI 出力キーを押すことによって行ないます。

4. 必要に応じて、各 MIDI IN ポートの設定を上記操作で行ないます。

5. 設定を終えたら、再度 ROUTE キーを押して、ルーティングモードを終了します。

メモ

FW-1884 は複数の MIDI IN ポートからのメッセージをマージして MIDI OUT ポートから出力することができます。

アナログオーディオの接続

入力

8 つの入力チャンネルにはそれぞれ、MIC 端子、LINE IN (BAL) 端子、INSERT 端子が装備されています。

アナログ機器を接続する場合、同じチャンネルの MIC 端子と LINE IN 端子のいずれか一方のみをお使いください。両端子を同時に使用することはできません。

MIC 端子には +48V ファントム電源を供給することができます。リアパネルの PHANTOM (+48V) スイッチを使って、4 チャンネル単位（チャンネル 1～4、5～8）でオン/オフを切り替えることができます。

チャンネル 8 の LINE IN 端子は、エレキギター/ベース用の入力端子として使うこともできます（リアパネルのスイッチによって切り替え可能）。

メモ

PHANTOM (+48V) スイッチをオンにするときは、ファントム電源を供給するとダメージを受けるような機器が、MIC 端子に接続されていないことを確認してください。

接続

INSERT 端子（6 φ、TRS フォーンジャック）には、コンプレッサーのようなアナログ機器を接続します。

各端子の仕様は以下のとおりです。

	MIC	LINE IN (BAL)	INSERT
コネクター	XLR-3 タイプ（2 番ホット）	バランス、6 φ フォーンジャック （チップ=ホット、リング=コールド、スリーブ= GND）	TRS、6 φ フォーンジャック （チップ=センド、リング=リターン、スリーブ= GND）
入力レベル	− 56 dBu 〜 − 2 dBu （TRIM つまみで調節可）	− 42 dBu 〜 + 12 dBu （TRIM つまみで調節可）	− 2 dBu（最大 + 14 dBu）
出力レベル	−	−	− 2 dBu（最大 + 14 dBu）
入力インピーダンス	2.2 k Ω	10 k Ω （GUITAR - LINE/MIC スイッチが GUITAR ポジション時は 1 M Ω）	10 k Ω
出力インピーダンス	−	−	100 k Ω

出力

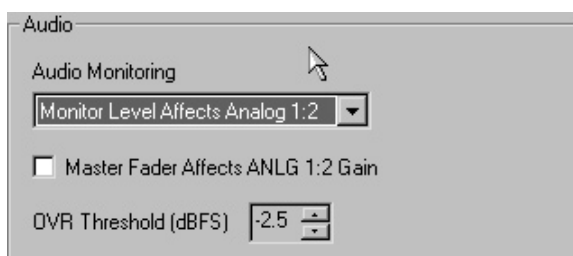
8 つの 6 φ フォーン出力端子からはすべて + 4 dBu のバランス信号が出力されます。出力インピーダンスは 100 Ω です。
これらはモニターシステムに接続されます。ステレオミックスの場合はチャンネル 1 / 2 のみを使います。DAW ソフトウェアがサラウンドミックスに対応している場合は、最大 7.1 フォーマットまでのサラウンドミックスを出力することができます。

OVR Threshold [dBFS] :

レベルメーターの一番上の赤色 OVER インジケーターの点灯レベルを設定できます。フルスケールから何 dB 下のレベルで点灯するかを 0.5 dB 単位で指定します。

出力に関する設定

ソフトウェアのコントロールパネル内には、いくつかのオプション設定が用意されています。



Audio Monitoring :

ロータリータイプの MONITOR つまみがアナログチャンネル出力 1 / 2 のレベルのみをコントロールするか、あるいは全 8 チャンネル出力のレベルをコントロールするかを選択できます。

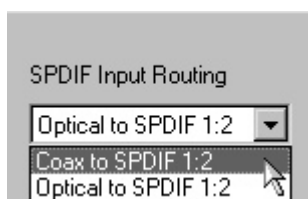
Master Fader Affects ANLG 1:2 Gain :

このチェックボックスをチェックすると、FW-1884 のマスターフェーダーによって、DAW 側のマスターフェーダーに加え、MON MIX 時のモニター出力を調節することができます。

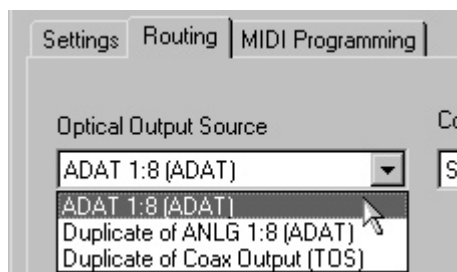
デジタルオーディオの接続

オプティカル入出力

デジタルオーディオ機器からの入力には、FW-1884 の ADAT/OPT-IN 端子（オプティカル）を使用できます。デフォルトでは、この端子が 8 チャンネルデータ（ADAT フォーマット）を受けけるように設定されていますが、コンピュータ上の FW-1884 コントロールパネルを使って、S/PDIF フォーマットや AES/EBU フォーマットのデータを受信するように設定することができます（コントロールパネルの表示では S/PDIF のルーティングとなっていますが、AES/EBU フォーマットも入力可能です）。



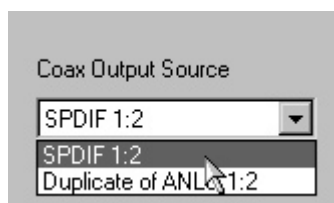
FW-1884 の ADAT/OPT-OUT 端子からは、マルチトラックのデジタルデータが出力されます。ご使用する DAW によっては、アナログ出力とは別の 8 チャンネルデータを出力するか、同じ 8 チャンネルデータを出力するかを選択することができます。また、コアキシャル出力で設定（次項参照）したものと同じデジタルデータを、S/PDIF フォーマットで出力することも可能です。



コアキシャル入出力

オプティカル入力端子を S/PDIF 入力用に使わない場合、コアキシャル入力端子を S/PDIF 入力用に使うことができます。

コアキシャル出力端子からは、アナログ出力 1 / 2 と同じ信号か、あるいは別のステレオ信号を出力します。



メモ

入出力の接続を完了した後、ワードシンクの設定を行ないます。

ステータスインジケータ

以下の 4 つのインジケータは、現在の各ステータスを示します。

FireWire	CLOCK	ADAT	D IN
○	○	○	○

- FireWire (IEEE1394 接続)
- CLOCK (システムクロック)
- ADAT (ADAT 入力)
- D IN (S/PDIF もしくは AES/EBU 入力)

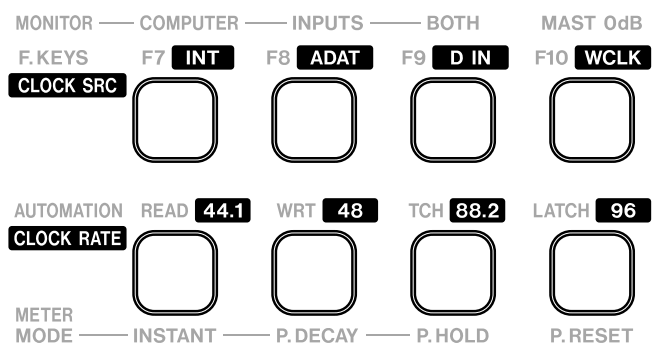
それぞれの端子に適切な接続が行なわれ、各信号が正しく受信されているときに、対応するインジケータが点灯します。

IEEE1394 接続にエラーがあると、FireWire インジケータが点滅します。他のインジケータについては、速く点滅している場合は入力エラーが起きていることを示し、ゆっくり点滅している場合はデジタルロックが得られていないことを示します。また、CLOCK インジケータを除き、他のインジケータが消灯している場合は、それらが未接続であることを意味します。（各インジケータの詳細については、取扱説明書をご参照ください。）

ワードシンクの設定

システム内のデジタルオーディオ機器は、共通のワードクロックに基づいて動作しなければなりません。FW-1884 は、クロックマスターにもクロックスレーブにもなることができます。クロックスレーブになる場合、オプティカル入力、コアキシャル入力、または WORD SYNC 入力からの信号にロックします。パネル上にはクロックソースがそれぞれ、INT（内部クロック）、ADAT（ADAT 入力）、D IN（S/PDIF もしくは AES/EBU 入力）、WCLK（ワードクロック入力）と表示されています。

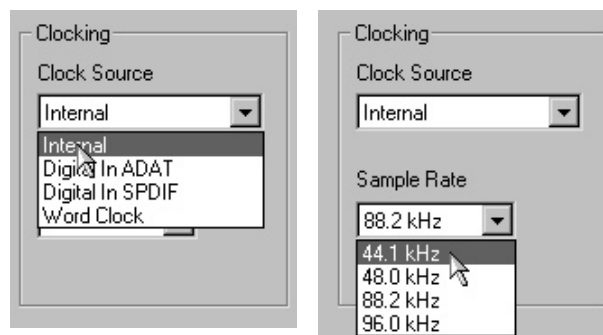
1. CLOCK キーを押したままの状態にすると、現在選択されているクロックソースとサンプリング周波数（クロックレート）に対応するキーがそれぞれ点灯します。



2. 設定を変更する場合は、CLOCK キーを押したままの状態、希望の CLOCK SRC キーと CLOCK RATE キーを押します。キーが点灯し、新たにそれらが選択されます。

選択されたクロックソースを正しく受信し、きちんと同期がとれている場合、CLOCK ステータスインジケータ（上記参照）が点灯します。CLOCK ステータスインジケータが速い点滅をしている場合は、選択されているクロックソースの入力エラーが起きています。遅い点滅をしている場合は、ロックエラーが起きています。

なお、ソフトウェアコントロールパネルからも、クロックソースおよびサンプリング周波数の設定を行なうこともできます。



その他の接続

ワードクロックの接続

BNC コネクターを使って FW-1884 の WORD SYNC IN (75 Ω) 端子に外部からのワードクロック信号を入力します。この信号を基準クロックとしてワードシンクさせる場合は、前述の手順に従ってクロックソースを WCLK (ワードクロック入力) に設定します。

また、FW-1884 はシステムのクロックマスターになることができます。この場合、クロックソースを INT (内部クロック) に設定します。このとき、ワードクロック信号が WORD SYNC OUT 端子から出力されます。

フットスイッチ

FW-1884 の FOOT SW ジャックにオプションのフットスイッチ (TASCAM RC-30P) を接続することにより、フットスイッチを使って DAW ソフトウェアのパンチイン/アウトを操作したり、MIDI コマンドを送信したりすることができます。

この製品のお取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム営業技術までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く 9:30～12:00/13:00～17:00 です。

タスカム営業技術 〒180-8550 東京都武蔵野市中町 3-7-3

電話：0422-52-5106 / FAX：0422-52-6784

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。

お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く 9:00～17:00 です。

修理センター 〒190-1232 東京都西多摩郡瑞穂町長岡 2-2-7



一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
携帯電話・PHS・自動車電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、
通常の電話番号（下記）にお掛けください。

新電電各社をご利用の場合、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、
「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。
このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話
番号（下記）にお掛けください。

電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

■住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒180-8550 東京都武蔵野市中町 3-7-3

<http://www.teac.co.jp/tascam/>